

事業所名

でいさびず あいりんご1.5

支援プログラム (参考様式)

作成日

R8

年

1

月

31

日

法人(事業所)理念		<p>「楽しい・安心できる・使命感」をテーマに重点を置いています。  まず、楽しい気持ちを持つためには、同じ目線に立って自分も一緒に楽しむ。  次に安心できる気持ちを持つためには、もしも相手が自分の家族や友達だったらと思って接することです。  最後に使命感は、“自分だから” “自分しかできない” という気持ちをもって行動する。</p>		
支援方針		<p>支援方針は、「支援する」「変える」ことを目的とせず、子どもが安心して存在できる時間と空間を保障することを最優先とします。不登校という状態を前提に、その子なりの回復・成長のプロセスを尊重した関わりを行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安心の土台をつくる支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価や結果を求めず、安心して過ごせる時間を積み重ねる</li> <li>・来所できた事実そのものを肯定的に捉える</li> <li>・「できる/できない」ではなく「どう感じているか」を大切にする</li> </ul> </li> <li>2. 選択できることを増やす支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動・関わり・距離感を自分で選べる環境づくり</li> <li>・参加しない、途中でやめる選択も尊重</li> <li>・自分で決める経験を通して主体性を育てる</li> </ul> </li> <li>3. 関係性を回復する支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・大人との安定した関係づくりを重視</li> <li>・無理に集団に入れず、一対一の関わりを基本とする</li> <li>・信頼関係を土台に、少しずつ世界を広げる</li> </ul> </li> <li>4. 心と体を整える支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・休息、静養、リラックスを支援の中心に据える</li> <li>・刺激の調整を行い、安心できる感覚環境を整える</li> <li>・疲労や不安を溜め込まない関わり</li> </ul> </li> <li>5. 先を急がない支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校復帰を前提としない</li> <li>・成長のスピードを他者と比較しない</li> <li>・今の状態が将来につながる一過程であると捉える</li> </ul> </li> </ol>		
営業時間		9 時 0 分から 18 時 0 分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容				
本人支援	健康・生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心して一日を過ごせる生活リズムづくりの支援</li> <li>・来所時間や滞在時間を柔軟に調整し、負担を軽減</li> <li>・疲れやすい児童への休息・静養の確保</li> <li>・食事・水分補給の声かけと見守り</li> <li>・身だしなみ、整理整頓など日常生活動作のさりげない支援</li> <li>・「今日は何もしない」を選べる環境づくり</li> </ul>		
	運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鬼ごっこ、ボール遊び、ダンスなど気分転換を目的とした軽運動</li> <li>・ヨガ、ストレッチ、深呼吸など心身を落ち着かせる活動</li> <li>・感覚遊び(スライム、砂遊び、水遊び、感触マット等)</li> <li>・身体を動かすことが苦手な児童への見学・部分参加の保障</li> <li>・静と動を自分で選べる活動構成</li> </ul>		
	認知・行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パズル、積み木、ボードゲーム、カードゲーム</li> <li>・クイズや簡単な課題による集中力の向上</li> <li>・スケジュールや活動内容の見える化による安心感の提供</li> <li>・成功体験を重ね、自信につなげる支援</li> <li>・失敗を責めず、挑戦そのものを認める関わり</li> </ul>		
	言語コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無理な発話を求めない関係づくり</li> <li>・雑談や遊びの中での自然な会話の促進</li> <li>・気持ちカード、イラスト、文字など多様な表現手段の活用</li> <li>・会話が苦手な児童への一対一の丁寧な関わり</li> <li>・話す・聞く・伝える経験を安心できる形で積み重ねる</li> </ul>		

	人間関係 社会性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数での落ち着いた関係づくり</li> <li>・一人遊び、並行遊びを尊重した段階的な集団参加</li> <li>・順番待ち、ルール理解などを遊びの中で体験</li> <li>・他者と関わる楽しさや安心感を育てる</li> <li>・トラブル時は叱責せず、気持ちの整理を支援</li> </ul>		
	家族支援	<p>本事業所では、不登校児童への支援は家庭支援と一体であると考え、保護者が孤立せず、安心して子どもと向き合える環境づくりを重視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者からの日常的な相談対応（来所時・電話・必要に応じた面談）</li> <li>・子どもの状態や小さな変化を丁寧に共有し、肯定的な視点で伝達</li> <li>・不登校に対する不安や罪悪感を軽減するための心理的サポート</li> <li>・家庭での声かけや関わり方についての助言</li> <li>・「休ませてよい」「急がなくてよい」という考え方の共有</li> <li>・家庭での負担が大きくなりすぎないような関係づくり</li> <li>・兄弟姉妹への配慮も含めた相談対応</li> <li>・保護者同士が気持ちを共有できる機会の提供</li> </ul>	移行支援	<p>子どもが次のステップに進む際、「不安なく移行できること」を最も大切にしたい支援を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校復帰をゴールとせず、多様な進路選択を尊重</li> <li>・別室登校、短時間登校、オンライン学習等への段階的支援</li> <li>・進学・進級・卒業に向けた気持ちの整理のサポート</li> <li>・環境変化に対する不安を軽減するための事前準備</li> <li>・子ども自身の意思決定を尊重した進路選択支援</li> <li>・学校、相談支援専門員、関係機関との連携</li> <li>・移行後も必要に応じた継続的なフォロー</li> </ul>
	地域支援・地域連携	<p>地域の中で子どもと家庭を支えるため、関係機関との連携を大切にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校（担任、養護教諭、支援担当等）との情報共有</li> <li>・相談支援専門員との定期的な連携</li> <li>・医療機関、福祉機関、子育て支援機関との協力体制</li> <li>・地域資源を活用した外出・体験活動</li> <li>・地域全体で子どもを支える意識づくり</li> <li>・切れ目のない支援体制の構築</li> </ul>	職員の質の向上	<p>子どもにとって安心できる支援を提供するため、職員の学びと成長を重視します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員同士で学び合う内部研修の実施</li> <li>・不登校支援、発達特性、感覚過敏等に関する研修参加</li> <li>・子ども理解を深めるための事例検討</li> <li>・支援の振り返りと改善を行うミーティング</li> <li>・職員自身のメンタルケアと働きやすい環境づくり</li> <li>・チームで支える支援体制の構築</li> </ul>
	主な行事等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初詣・節分・運動会・遠足・クリスマス会・全事業所合同活動など</li> </ul>		